

わ

が

街

わ

が

故

郷

株式会社前川製作所と平野郷

会社紹介

商標 MBS

社名 株式会社 前川製作所

大阪市平野区平野市町 1 丁目14番 3 号

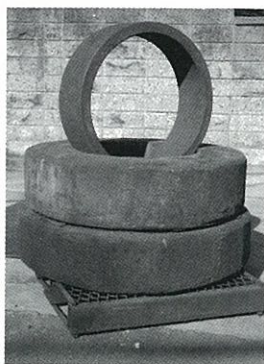
TEL 06-6791-3457



本社 工場

当社は昭和 8 年、前川彦次（現社長の父）が設立、自動車補修用ボール、テーパーローラーベアリングの生産を開始した。昭和15年ころ、輸入品に頼っていた大型ベアリングの入手が困難になり、製鉄メーカーなどの要請により、外径 1 m 近いスフェリカルローラーベアリングを生産していたが、昭和18年、戦争の拡大により工場を閉鎖するため、光洋精工(株)に大型用設備建設を勧め生産にも協力した。先代は独立前の昭和 5 ～ 6 年ころ、熱処理炉を自分で作り日本で初めて軸受鋼の軟化焼鈍を成功させ、さらに昭和16年ころ軸受鋼パイプも日本特殊製鋼(株)に試作させるなど、常に新しいものに挑戦していた。

その後、昭和26年、株式会社前川製作所を設立し、前川博が社長に就任し現在に至っている。



昭和18年 日本製鋼所室蘭工場製大型ベアリング用鍛造品で、当時の記念としての保存品

生産品目

- (1)テーパーローラーベアリング
標準的なものと、特別な構造をしているもの
- (2)シリンダリカルローラーベアリング
標準形、総ローラー形、偏心しているもの
- (3)ボールベアリング
単列ボール、固定ダブル型、4点接触形等、アンギュラー型、アンギュラーダブル型、マキシマムタイプ
- (4)他の中小メーカーが造っていない特殊タイプ

わが街と周辺地域の紹介

当地平野は大阪市の南東に位置し、大正14年

に大阪市に編入されるまでは、大阪府東成郡平野郷町といわれ、非常に歴史の古い町である。



JR平野駅にある地域案内

地名の変遷

杭全荘(クマタ)

伝説によれば、この地に住まわれた日本武尊の御孫、杵俣長日子王(クマタヒコ)の名にちなんで、杭全荘と称したと伝えられている。

広野荘

その後、征夷大將軍 坂上(サカノウエ) 田村麿の子、広野麿がこの地を朝廷より賜り支配するようになり、広野荘となった。さらに広野が訛り、平野となったと伝えられている。このような歴史的地域のため、古い神社、仏閣が多く残っている。

周辺地域の紹介

杭全神社

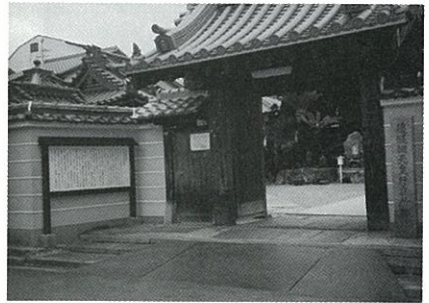
平安時代の初め貞観4年(862年)広野麿の子、当道が素盞鳴命尊(スサノオノミコト)を当地の鎮守としてお祀りした。夏祭は御輿、布団太鼓、地車九基が出る勇壮な名物祭りである。



杭全神社拝殿

長宝寺

坂上広野麿の妹、春子姫は桓武天皇の妃となられたが、天皇崩御の後、当地に帰られ、大同元年、この寺を建立し自ら尼となり天皇の冥福を祈られた。以後この寺は尼寺で、坂上家に女子がいないときは、公卿出身の尼僧を住職に迎えることになっていた。南北朝時代、後醍醐天皇が皇居を吉野に移されるととき、当寺を仮皇居とされた。また、この寺の銅鐘は古くから大阪の名鐘の一つとして知られ、大正6年、国宝に指定されたが、戦後規定が変わり現在は重要文化財に指定されている。



長宝寺



坂上春子碑墓所

全興寺

本尊は薬師如来で、聖徳太子作といわれており、素盞鳴命尊の持仏であると伝えられ、杭全神社の夏祭りには御輿がこの寺で大祓をするならわしになっている。

大念仏寺

融通念佛宗の総本山で、大治2年（1127年）、鳥羽上皇が同宗の祖良忍に命じ建立された。明治31年、失火のため焼失した。また、再建したお堂も第一次室戸台風で倒壊し、現代の本堂は昭和13年に竣工した物で、大阪府下で最大の木造建築である。当寺の末寺には長野の善光寺があり、本山より有名になっている。平野にはその他約20以上の古いお寺がある。いずれも数百年の歴史を持つ寺ばかりである。



大念仏寺 本堂

坂上公園

当社のすぐそばにあり、昭和10年くらいまで、周囲は小さな堀で囲われた坂上広野麿の墓地であったが、現在は小さな墓地公園になっている。平野にはこれ以外にも多くの遺跡があり、探訪する方々が増えている。平野の歴史は上記のごとく神社仏閣とこの地域の開発、発展に尽くされた坂上家の子孫、七名家(末吉、則光、成安、徳成、三上、土橋、辻葩)の結束と、その中でも末吉家の足跡は、平野郷に大きな歴史を残した。



坂上公園 坂上広野麿の墓

自由都市平野郷

足利時代の応仁の乱以後、足利の中央の権威は失墜し戦国時代が続いた。平野郷も町の周囲に川と環濠を作り、自衛のため二重の防衛網を作った。末吉家を中心に七名家が力を合わせ武家支配より守り、町民自身の自治を行う自由都市として独立した。

平野郷の文化

坂上一族の妃は、京都の公卿の子女が多く、教育文化の面でも大きな影響を与えた。杭全神社境内に連歌所があり、宝永5年（1708年）に再建されたといわれているが、発生は定かではない。連歌は明治の初めまで続いた。

含翠堂（カンスイドウ）

享保2年（1717年）、坂上七名家の土橋友直により創立された。私塾としては日本で一番古いといわれ、儒学、国学、和歌、医学、算学、天文学など、有名な学者を大阪、京都より招き、平野郷内の教育文化の向上に尽くされた。なお、この塾は塾生より学費を取らず、地元の人たちより寄付を募り、余剰金を商人に貸付け運用していた。20～30年後には寄付にも頼らず、凶作時には地域の救済事業に使ったと記されている。その他にも岡本塾、中北塾、玄泉塾、小川塾などの名前が伝えられているが、明治5年、学校制度ができるまで155年余りも続き、その碑が残っている。武士、平民を問わず住民の教育に尽くされた。



含翠堂跡の記念碑

杭全神社のお田植神事

昨年、東京の国立競技場体育館前で披露され喝采を浴びた。農家の一日の作業をユーモラスに表現したもので、無形文化財として伝えられている。

楠の大樹

杭全神社の参道西側にある老大楠は、大阪で一番古い木と言われ、樹の周囲が8 m以上あり樹齢千年以上と鑑定され、天然記念物に指定されている。



大楠の木

昔の交通

交通の要衝であったので、今でも道標が多く残っている。天王寺、大阪藤井寺、大峰山、道明寺、熊野、祇園などが刻まれている。

東に奈良、南に泉南、北に京都の国々を控えて、ここが摂南の交通の要衝であった。さらに平野川を使い、柏原船で大和河内の特産物、綿、木綿、植物油の交易、平野酒も有名で、豊臣秀吉の醍醐の花見の宴にも平野酒の名が出ている。特に綿の改良に力を入れ、堂島の米取引所の役人たちが国元へ帰るとき土産として持たせたため、瞬く間に河内木綿は日本全国に有名になり、各地に番頭を駐在させ販売し、いろいろな情報を集める役目もさせていた。

戦国時代から徳川時代にかけて、次々と新しい勢力が交代する中で、平野郷は無益な衝突を避け、織田信長、豊臣秀吉の時代も直轄領であり、

大阪夏の陣のときには豊臣方のはずであったが、一部を除き徳川方に味方し平野で家康の危機を助け、道案内もしたために、大阪方により町の大半が焼き払われたが、平野の巨商たちはすでに資産を大阪に移していたので力を温存できた。

御朱印船

末吉勘兵衛は、家康より旧領地保有を認められ、さらに朱印状を与えられ末吉丸で東南アジア貿易を一手にすることを許された。



御朱印船

銀座の開設

徳川家康を説き、銀座（銀貨鑄造）を伏見に作り、慶長6年その頭領となる。さらに銀山経営にも乗り出した。後に銀座を江戸にも作り、銀座の町名が生まれた。このように徳川時代中期まで、末吉家は巨大な商権を手にし海外にまで発展した。

平野郷町の区割整理

大阪方に焼かれた町並みを、坂上七名家により碁盤の目のように道路を作り直し、小京都といわれるようになった。これらの道は現在もそ



徳川初期に区画整理された地図

のまま使用されている。変わったのは周辺に大きな国道などができ、平野郷は大きく拡大していった。

住吉大社と末吉家

住吉大社の祭りには、坂上七名家の年の当番家より桔梗の花を供える神事があり、御輿の前にこの花を供えなければ渡御が始まらない。現在は末吉家が続けている。

吉野山の桜と末吉家

和歌山県吉野山は桜の名所で有名である。先般、世界遺産に指定された吉野山の座王堂がある。そのすぐ下の道に、吉野山の歴史年標が書かれている。その中に天正5年（1578年）、大阪の豪商末吉勘兵衛が、桜の木一万本を吉野山に寄付した。その後、桜の木を寄付する者が増え、桜の名所となったと記されている。

元禄時代後半、平野川の氾濫による河内平野の洪水をなくすため、大和川を作り大和の水は平野川を流れず大阪湾に出るようになったため、平野川は小さくなり物流交通に使用できなくなった。さらに、徳川直轄領として代官が送り込まれ、その後徳川家の功臣であった本多家、柳沢家、土居家などの領地に順次変わり、派遣された奉行の圧政、過酷な租税の徴収などにより平野郷の衰亡が始まった。

第二次世界大戦時

この地は幸いにも戦火を免れ、古い町並みが残っている。当社のある平野市町は、昔、平野川の柏原船で集積した品物を取引する地域だったので、市町と名付けられた。現在の平野区の人口は20万人を超え、大阪市で一番大きな区になっている。

（株式会社 前川製作所 前川 博）

